

米国金融政策（2023年9月FOMC）

政策金利を2会合ぶりに据え置き

2023年9月21日

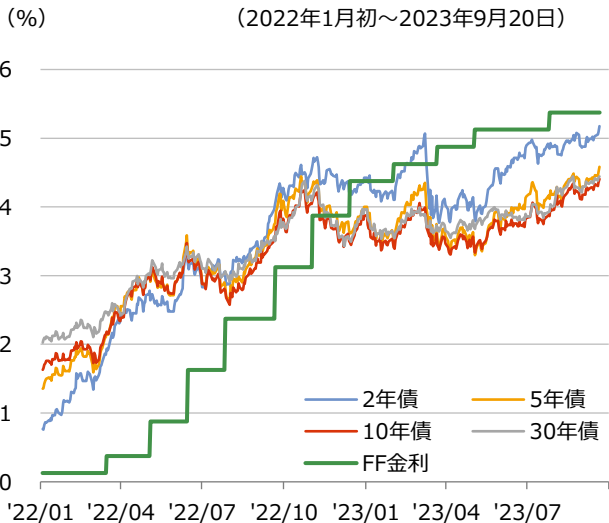
FRBは政策金利見通しを引き上げ、金融引き締め期間の長期化を示唆

FRB（米国連邦準備制度理事会）は9月19-20日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.25～5.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。また、国債やMBS（住宅ローン担保証券）の保有額縮小を計画通り実施していくことも再確認しました。

声明文に大きな変化はなく、利上げ打ち止めを示唆する文言はありません。むしろ、パウエルFRB議長は「適切であれば追加利上げの用意がある」と述べ、発表されたFOMC参加者の2023年末FF金利見通しも中央値で5.625%と、年内1回の追加利上げが想定されています。また、2024年末FF金利見通しは中央値で5.125%と、従来の4.625%から市場参加者の想定を上回る大幅な上方修正となりました。議長は「インフレが目標に向かって持続的に低下していると確信するまで、政策金利を景気抑制的な水準で維持するつもりだ」と述べ、景気見通しの引き上げと合わせて、金融引き締め期間の長期化を示唆しました。

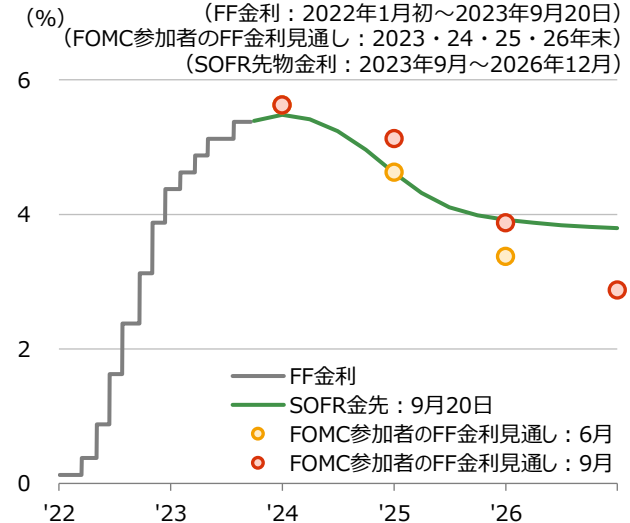
FF金利見通しの大幅な上方修正というタカ派的な据え置きを受けて、債券市場は2年債利回りを筆頭に全般的に上昇しました。FF金利先物では追加利上げの可能性を年内累計5割程度織り込む中、追加利上げの有無は、雇用・物価指標を中心とするデータ次第です。しかし、実体経済が目立って弱含んでいない現状では利下げ観測の後退傾向が継続し、長期金利は4%台で当面高止まる可能性が高いと思われます。

FF金利と米国債利回り



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
23年6月は2026年末FF金利見通し未公表 (出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。